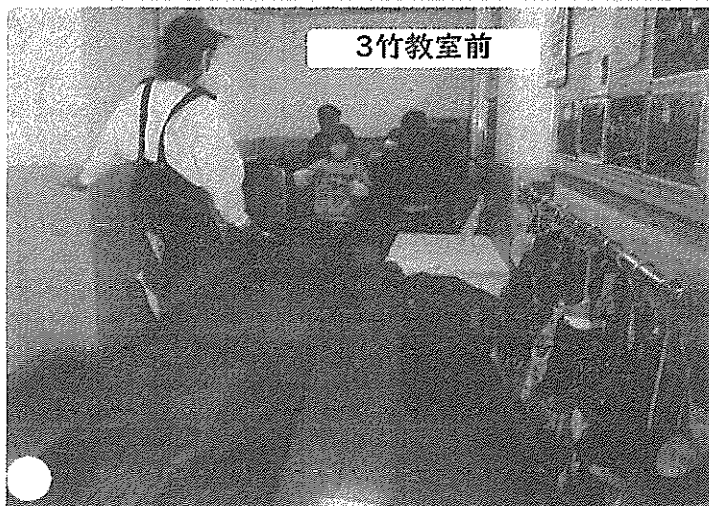




あつという間の3学期だからこそ 毎日をたいせつに

年明けの月日の早さは「いく・にげる・さる」と表現されますが、最も短い学期である3学期は、すでに4分の1が終わりました。残りの4分の3もあつという間に終わってしまいそうですが、それぞれの学年のまとめの期間として1日ずつを大切にさせたいところです。ある学年・学級のおたよりには、「次の学年の0学期」との表現も見られます。先週、4月に入学予定の児童(保護者)に向けた入学説明会を終えました。新入生を迎えるにあたり、どの学年も1つずつ進級できる準備を整えます。6年生にとっては卒業の取組と中学生への足掛かりとなるこの期間は、毎日をおろそかにするわけにはいきません。

さて、豪雪の昨年と比べ今年は雪のない新年を迎えました。生活に支障をきたす雪がないのは大人にとってはありがたいことですが、雪遊びをしたい子どもたちには物足りない残念な1月となっています。さらに残念なことに、コロナ感染症の状況が改善に向かっているとは言えません。加えて今年はインフルエンザも流行しそうです。「マスク生活を続けているのに何故?」という思いですが、1月12日の新聞には「県内インフル流行期入り」との記事があり、「医療機関あたりの患者では高島管内が県内でトップであることを伝えていました。大切な3学期を様々なウイルスに邪魔されないよう、ますますの予防に心がけてください。



なわとびに取り組む大きな音が響いて…

引き続き病気の予防にもかかわることですが、健康づくりの3要素は①栄養(食事)・②運動・③休養(睡眠)とされています。

①食育基本法が成立したのは2005年のことです。これは子どもの頃から食に関心を高め、正しい知識をもって生活することが必要となっていることの証でしょう。給食時の放送では「今日の献立は…です。おもにエネルギーになる【黄】の食べ物は…、おもに体をつくる【赤】の食べ物は…、おもに体の調子をととのえる【緑】の食べ物は…」と毎日伝えています。教室でもそんな取組をしています。町内のこども園でもされていることを聞きます。規則正しく、バランスよく、が大事ですね。

③「睡眠教育」という言葉があります。また、「睡眠外来」を設けている病院もあり現代人と睡眠の関係が問題視されていることがわかります。睡眠時間が足りなくて健康を害するのはもちろんですが、時間だけでなく「質のよい睡眠」が求められています。就寝前に明るいものを見る(テレビやスマートフォンなどの画面)ことは、睡眠の質を下げってしまうとされています。朝から調子が出ない、脳が起きていない、そんな状態では学習や仕事に支障をきたします。

②さて、いちばん取り組みにくいのは運動です。健康にいいことはわかっているけど…という人が多いのではないのでしょうか。「●分までできる」「どこでもできる」といった言葉で啓発をしてもらっても、行動に移すのは難しいものです。でも、学校では3学期に入り、なわとびにチャレンジする子がたくさん見られます。長休み・昼休みになると、縄跳びボードのうえで跳ねる音が学校じゅうに響き渡ります。2012年に制作し11年目のシーズンを迎えたこのボードは、たくさんの子どもの技の習得を支えてきました。何か運動をやってみようとするきっかけになる環境づくりが、自分を動かすことにつながるかもしれません。(わかっているながら…は、同感です)

たくましい子に育つために大人ができること ～地域の偉人から学ぶ～

今年度は、「たくましい子」「自立」に向けた取組を毎回のように「ききょう」でお伝えをしています。新旭生まれて、2月12日に市内で講演をされる永田和宏さん(歌人・京都産業大学名誉教授)という方がいらっしゃいます。市教育委員会で紹介されるまでは存じ上げなかったのですが、著書である「知の体力」(新潮新書)には興味深い内容が綴られています。地域が生んだ偉人である永田さんの著書からも、「たくましい子」を大切にされていることが伝わってきます。

① 答えのない問題に向かうことの意義

● 自らが考えて答えを探す。答えを出すより探すこと自体(失敗も含めて)に意味がある。教えてもらえない問題にチャレンジし、繰り返される失敗のなかに、答えを探すヒントが隠されている。

● 高校までは、正解か不正解かが優先される。この「すべてに正解がある」スタンスを変えないまま社会に出て、そんな社会人ばかりが増えていいのか。実社会では、答えのある「問題」というのは、何ひとつないのだと言ってよい。

② 大人は子どもの自立を助けることを最優先に考える

● 子どもが「果敢な失敗」に挑むべき時に、親や教師が救いの手を差し伸べることは弊害となる。それはその場を救うことにはなっても、結局は、子の自立を妨げることになる。失敗の芽をあらかじめ摘んでしまうことは、成功への道を閉ざす。

● 失敗体験こそが、問題に直面したときに成功へと導く。失敗を多く経験してきた人間こそ、いざというときに冷静な判断を行うことができる。

● 先生が親切になった。ちょっと親切すぎるのではないか、親切な教師はいい教師なのか。

● 子離れできない親が増え、大学の卒業式にたくさんの保護者の参加がある。

これまでのかかわりを反省させられる内容です。とくに「その場を救うことになっても」の部分が突き刺さります。学校は地域のみなさんから多くの支援をいただいています。11月の下旬には5年生が学校で収穫したお米を飯盒を使って炊きました。この学習にも多くの方が来てくださいました。そこでは、「子どもたちでやらせてください。あまり手出し口出しせずに、安全を見守ってください。」というスタンスでサポートしていただきました。その趣旨を忠実に守ってくださり、子どもたちは「自分たちでやり遂げた」という実感を持って学習を終えることができたのです。何日も前から枯れ葉や小枝を拾い集め、かまどに代わるコンクリートU字溝を運び、準備してきた子どもたちですから充実感はおさらず。この学習でも「たくましい子」に向かう歩みを期待しての学びが展開されています。



11月21日
5年 屋外での炊飯



7月10日
日爪
たなばた祭り

書き損じハガキ等を募金に

第8号(11/16)でも紹介しましたが、高島市PTA連絡協議会では、書き損じハガキ等をユニセフ募金として世界で支援を必要としている子どもたちの力になれるよう取組を進めています。年賀状の書き損じや余りがありましたら学校までお持ちください。(個人情報保護スタンプを施します)

2月 学校行事予定

1日 (水) 委員会活動
2日 (木) PTA(新)実行委員会
3日 (金) 4年スキー教室
6日 (月) 希望の会の日
学年費口座振替(1.2.4.5年)
7日 (火) 5年スキー教室

11日 (土) 建国記念の日
14日 (火) ひびきあい活動(6年)
21日 (火) 地域学校協働活動発表会
23日 (木) 天皇誕生日
24日 (金) 学校運営協議会
27日 (月) 家庭学習がんばり週間

※感染症の影響により変更することがあります。

地域学校協働活動発表会

1学期から2学期前半に取り組んだ地域学校協働活動について子どもたちが発表をします。各地区に分かれ、何ができるかアイデアを出し合い、いろんな人に交渉をしながら活動を進めました。悩んだり困ったりしながら、失敗もしながら、でも、やってみて地域のみなさんが喜んでくださるのを肌で感じ、やりがいを感じた活動をまとめ、発信します。

永田さんの著書には、以心伝心を善しとする日本人はプレゼン(大勢に発表し伝達する)が苦手である、とありますが、高学年児童のプレゼン能力は高まっているのでしょうか。

感染状況が心配ですが、授業にかかわってくださったサポーターのみなさま、5.6年保護者のみなさまにもご覧いただく予定をしています。

2月21日(火) 14:15～

自治会役員様向けの説明会は13:30～

永田和宏さんの講演会は、
どなたでも参加できます。

2/12(日)ガリバーホール

くわしくは…



申込は…